

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点(短期経営目標)	
<p>～心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶ子どもをめざして～</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で様々な経験をし、豊かな感性を養う。 自分の思いや考えを伝え、主体的に活動しようとする気持ちを育てる。 遊びを通して、互いを認め合いながら言葉の力やコミュニケーション力を養う。 資質向上を目指し、職員同士が学び語り合える組織づくりを進める。 		<p>○学園の経営会議や学年部会などで子どもの様子について丁寧に伝え合うことで、互いの状況を把握し、課題意識をもちながら教育保育を進めることができた。</p> <p>○これまでの行事について、内容や方法を見直すことで、子ども達がより主体的に取り組む姿が見られるようになった。</p> <p>△個人懇談会や日々の送迎時に保護者に丁寧に様子を伝えることで、子どもの成長する様子を共に喜ぶことはできたが、クラス懇談会など保護者同士が気楽に交流する機会をもつことができなかった。</p>		<p>元気いっぱい 笑顔いっぱい こども園だ～い好き ～思いを伝えながら夢中になって遊ぶ子どもをめざして～</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心、安定した生活を送る中で自己肯定感や互いを尊重する心を育む。 体をのびのびと動かし、しなやかな体をつくる。 夢中になって遊ぶ経験から、気付きや学びの力の土台を育む。 それぞれの家庭に応じた子育て支援を行い、保護者や地域と共に子どもを支える。 小中学校と連携し、学びと育ちをつなぐ。 職員の資質向上をめざす。 	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	学校関係者評価	
保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	『峰山学園』の教育目標 ふるさとを愛し、多様な人とつながりながら学び、探求し続ける子どもの育成 (1) 確かな学力の育成 (2) コミュニケーション能力の育成 (3) 評価を見通した取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 峰山学園の会議で、園児・児童の実態を交流する中で、目指す子ども像について共通理解し、主体的で深い学びを軸に教育保育を進めていく。 園での公開保育や小中学校の授業を参観したり、実践交流をしたりすることでこども園の育ちが小学校の学びへとつながるようにしていく。 ゆうかり子ども園・小中学校と交流し、他校種間のつながりをもつ。 一人一人の園児の育ちについて、小学校と情報を共有し、円滑な接続につなげる。 	<p>○学園の経営会議や一年担任会、特別支援部会等で各園、学校の活動について、また不登校、支援の必要な園児や児童の実態を交流し、支援方法について話し合うことで、主体的で深い学びについて共通理解し、進めていくことができた。</p> <p>○園の公開保育では、参観の視点を前もって伝えたりその後の研修会で「生活や遊びの中からの学び」についてパワーポイントを用いて説明したりしたことで理解してもらうことができた。</p> <p>○感染症のため、ゆうかり子ども園との交流が1度になってしまったが、峰山高校やおおみや苑との交流など学校関係の交流だけでなく、幅広く交流することでつながりをもつことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の不登校生徒が減ってきているのも、園での丁寧な教育の成果が表れているのではないかと感じる。小中学校の先生はもっと園の先生の子どもへの関わり方について学ぶべきだと思う。今後も園での活動を積極的に伝えてほしい。 	
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 安心して生活を送る中で、自己肯定感、友達を大切にしようとする気持ちを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの気持ちに寄り添い、思いを受け止め愛されているという実感がもてるようにする。 異年齢や同年齢での感動体験や葛藤体験を通して、互いを認め合い、大切に思える心を育てる。 意欲的に活動に参加したり、安定して過ごしたりするために、家庭と連携し基本的な生活習慣を身に付ける。 	<p>○一人ひとりの思いを受け止め、行動を認めることにより、園児が安心して遊びや生活に向かう姿が見られるようになってきた。</p> <p>○それぞれが興味のある遊びを年齢を超えて交流する中で、年上の友達に対する憧れや5歳児が年下の友達に優しく関わる姿が見られた。</p> <p>△送迎時や個人懇談会等で園児の様子について共有することはできたが、遅くまで起きていて朝起きられないなど改善には至らなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 従来取り組んできた、練習した成果を発表する行事ではなく、子ども達が主体的に遊びを進める参観に変えた取り組みを見て感動した。これまでのやり方を変えることは大変だが、日々の生活の中で子ども達が学んでいるということを保護者に丁寧に伝えていってほしい。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に体を動かし、しなやかな体と体力を培う。 ・生活や遊びの中で主体的に取り組み、友達と共感しあえる活動を進める。 ・夢中になって遊び込む活動を保障し、様々なことに取り組もうとする意欲を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊びや様々な運動遊びを通して体幹を育て、しなやかな体づくりを行う。 ・友達と遊びを共有して関わり合い、協力してやり遂げ、満足感・達成感を味わえるような活動や環境を用意する。 ・意欲的に活動を進めていくために、自然とのふれあいや実体験を大切にしたい遊びや生活を保障する。 ・子どもの興味や関心、発達、季節に合わせて環境を準備し、遊びの楽しさを味わえるようにする。 ・遊びや生活の中での様々な体験を通して、集中力や粘り強さを育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動遊びに継続して取り組むことで体幹が育ち、他の運動遊具に取り組もうとする園児が増えた。 ○園児の興味や関心に応じて環境を整えたことで、じっくり取り組む園児の姿が多く見られるようになった。また、頑張っている姿を認めることで、友達にも意識を向けられるようになり、協力して遊びを進める楽しさを味わう機会がふえた。 △熊が近隣に出没したことで、園児の安全を考え園外にでる機会がほとんどもてなかった。 △園児の興味のある遊びに合わせて環境を工夫したが、季節に合わせて絵本を入れ替えたり環境を構成したりするなど、細かい部分の配慮が十分でなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度も継続して運動遊びに取り組んでいることを聞いていたが、やはり続けることは子ども達の力になるので大切だと思う。 ・子どもの人数を考えると園庭が狭いように感じる。バスを利用して公園に行くなどもっと広い場所で遊ばせてほしい。
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に合わせた子育て支援を行い、共に子どもを支える。 ・保護者や地域の方と連携し、協力して子育てを進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との信頼関係を築くために共に子育てをしていく観点をもち、日々の送迎時や懇談会等で子どもの良いところや成長を伝える。 ・ドキュメンテーションや便り等で園の教育・保育内容について伝え、子どもの成長を共有する。 ・保護者自らが子育てを楽しみと思えるように家庭での子どもとの関わり方についてアドバイスしたり、悩みなどの相談にのったりする。 ・園開放や子育て支援センター、一時預かり等で保護者の相談にのり、必用に応じて関係機関と連携、協力を図り適切な支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> △送迎時に丁寧に子どもの様子を伝えるようにしたり、ドキュメンテーションを通して日々の学年の活動の様子を知らせたりするよう努めたが、保護者と園児一人ひとりの様子や育ちを共有することが難しかった。 ○保護者の様子をみて個々に懇談することで、保護者の悩みに寄り添い、よりよい支援の方法について一緒に考えることができた。 ○園開放を利用する保護者はほとんどなかったが、子育て支援センターの利用者が多かった。支援センターでは、指導員が相談にのったり必要に応じて保健師と連携をとったりして、様々な機関と連携、協力しながら適切な支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に子どもの育ちについて伝えることはとても難しいけれど、今後も根気よく丁寧に伝えてほしい。 ・園の取組に、保護者だけでなく地域の人にも声をかければ、たくさんの方が協力してくれ、地域で子育てをしていくという意識が高まると思うので、園の方から声をかけていったらどうだろうか。
<p>研修 (教員の資質向上・<u>人権教育</u>)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児一人一人の姿を見取り、個々に合わせた確かな指導の工夫を図る。 ・園内研修を充実させ、職員の資質向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士の交流や情報交換をする時間をつくったり方法を工夫したりして、園児の学びと育ちにつながるようにする。 ・教育・保育実践を振り返り、自己評価を通して質の向上を図る。 ・研修などを通して専門性の向上に努めるとともに、研修での学びを共有し実践につなげられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループに分かれて自分の保育を振り返り、園児の姿や学びについて語り合うことで、他の職員のアドバイスを聞くことができた。 ○午睡の時間を利用し、正職員と会計年度任用職員に分かれて自園の子どもの学びについてパワーポイントを用いて園長が説明したり、職員全員が同じ研修動画を見て学んだりすることで、園児への関わり方など共通理解することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児クラスを参観した時に先生方が一人一人に優しく声をかけ関わっておられる姿を見た。愛着形成の大切な時期に、家庭ではなかなかできないことを園で培ってもらっている。時代に合わせて教育も柔軟に変えていかないといけないと思う。
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園での学びについて、公開保育だけでなくドキュメンテーションなども利用し、積極的に伝え理解が深まるようにしていく。 ・学年全体の園児の学びについては理解してもらえたが、個々の成長についても懇談会の機会を増やし、より丁寧に保護者に寄り添い園児の育ちについて共有できるようにする。 ・豊かな心を育てるために、地域の方に協力してもらい、園外へ出かける機会をもちたくさん体験ができるようにする。 			